

STORY 11 高度のラブストーリー

登場人物

寺多さん（61歳） 寺多トモ子（59歳）

杉木さん（32歳） ゆきじ君（6歳）

お正月。

寒さが一段と増してくる中、正月ぐらい家でごろごろしていようと思った杉木であったが、早朝に寺多に呼び出された。

最近は、正月の行事などしない家庭が多い中、家族揃っておせち料理屋お雑煮を食べ、初詣に行こうということらしい。

杉：明けましておめでとうございます。

ゆ：あけましておめでとうございます。おじいちゃん。

寺：ゆきじい、明けましておめでとう！

杉：今年もよろしくお願いします。

ゆ：ことしもよろしくおねがいします。

寺：よろしくな、ゆきじ！

おせち料理、お雑煮も食べ、暮れにも出かけた舞蝶寺へ初詣に向かうため、紋白駅まで向かった。



寺：駅前がどんどんさびれていくなあ。なんだかもったいないなあ。

杉：何か思い出でもあるんですか。

寺：いやあ、紋白町に、はじめて駅が出来たことを昨日のここのように思い出すよ。

あの頃は、紋白町の住民の皆が集まって祝杯をあげたものだ。商店街もできてなあ、にぎやかやったんやあ。

はじめて、かあちゃんとデートの待ち合わせしたのも駅の前や！いやあ、なんか思い出すなあ。

杉：そうだったんですかあ。いい思い出ですね。

カランカラン。パンパン。

ゆ：今年もみんなが健康でありますように！

寺多一家は、初詣から帰るときの電車で、乗客の大きな話し声が聞こえた。

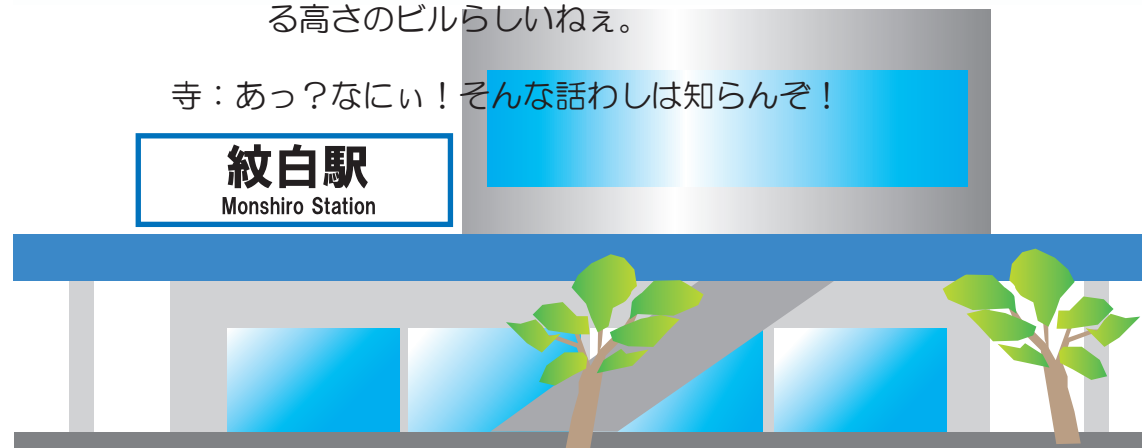
乗客A：今度紋白駅前に超高層複合ビルが建つらしいよ

乗客B：ああ、その話知ってる！100メートルを超える高さのビルらしいねえ。

寺：あっ？なに！そんな話わしは知らんぞ！

紋白駅

Monshiro Station



杉：ホンマですかね、今の話は。でも、大丈夫ですよ！
前にお義父さんの家の隣にマンション建設の話があったとき、第2種高度地区で高さが15メートルまでしか建たないって言ってたし、100メートルなんか無理でしょう！

寺：そうやなあ。でも・・・。

市役所

寺：年明け早々に妙な話を聞いたんやけど！

職：はい、なんですか？

寺：紋白駅にとんでもない高さのビルが建つってのは、ホンマか？

職：紋白駅にとんでもない高さのビルが建つってのは、本当ですか？

寺：って、わしが聞いてるんや！知らんのか？

職：すいません。知らないです。

寺：そうかあ、ただの噂やったんかなあ、やっぱり。
念のため聞くけど、紋白駅周辺では、100メートルの高さの建物は建てられるのか？

職：ずばり、建てることは可能です。紋白駅周辺の用途地域は**商業地域**ですので、超高層建築物が可能なのです。

寺：用途地域？商業地域？たしか聞いた気がする言葉やな。

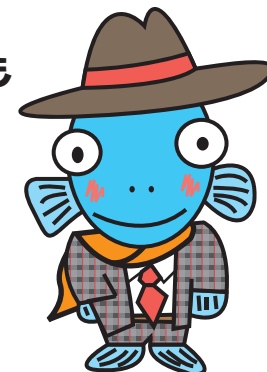
まかせてちょウオだい！

商業地域とは！？

飲食店等の商業施設の業務の利便の増進を図る地域のこと、住宅や小規模の工場も建てられる地域のことなんだ！

いい機会だから**工業地域**についても説明するぞぉ！

主に工業の業務の利便の増進を図る地域で、どんな工場も建てられるんだ。他にも住宅やお店は建てられるんだ！



寺：確かに駅前にはぎやかなほうがいいのはいいが。でも、あの紋白駅の景観が変わってしまってもいいのか！

職：おっしゃられていることはわかります。高層の建築物については、寺多さんだけではなく、いろいろな方から意見を頂いています。

このことから、現在、大学の先生や市民の代表の方など、まちづくりに関する知識を豊富に持っておられる方々にお願いして「市街地の高度利用のあり方検討委員会（以下、委員会）」を組織し、建築物の高さに関するルールについて検討しています。

寺：大学の先生にわしら住民の思い出や気持ちがわかるのか？

職：大学の先生をはじめとして参加されている皆さん真剣に熱い想いを持っておられますよ！

寺：で、その委員会では何を検討しているんや？

職：建築物の高さのルールはもちろん、緑化、壁面後退、デザイン等についてですね。これらを決めることによって明日野市の高層建築物へのルールの方向性を決める予定です。

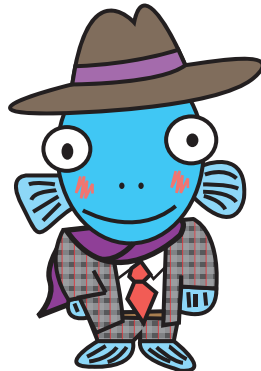
寺：今まで高さのルールは決められていなかったのか？

職：いえいえ、都市計画では、住居系用途地域や一部の商業地域には第1話で説明した高度地区により、建築物の高さのルールが決められていますし、景観では、景観上重要な地域については、**眺望景観保全地域**として、山並みや湖の眺望を守るための緩やかなルールがあります。

まかせてちょうオだい！

眺望景観保全地域とは！？

誰もが自由に出入りできて、美しい眺めが楽しめる場所として、いくつかの重要眺望点を設定し、そこからの眺めを保全していくことを目的に建築物の高さや色合い、デザインなどについて事業者へ強く協力を求めている地域です。



寺：そうやったんか。

職：現在、委員会では、商業系と工業系の用途地域においても、景観法に基づくルールとして、建築物の高さを10～15階建ての建築物に相当する高さまでに制限する方向で調整されています。

寺：良いことをしようとしているのはわかるが、今は建てられるんやな？

職：そうですね。でも、その意見がまとまれば、それを基に市としての歩むべき方向は明確になります。

寺：しかし、よりによってなぜあの紋白駅なんじゃ。

職：寺多さんは、紋白駅周辺にマンションが建つのは反対ですか？

寺：反対じゃ！

あそこは、わしにとって大切な場所なんだ。
わしとトモ子との大切な思い出が詰まった場所なんだ。
もう数十年前になるが、はじめてデートした場所だな。ドキドキしてトモ子の手を握ったよ。
駅からお城山を眺めながら歩いたんじゃ。
プロポーズしたのもあそこじゃ…。

寺多はしみじみとトモ子との思い出を語った。

職：来週の水曜日に、委員会での検討経過を報告する会を予定しており、市民の皆様、どなたでも参加いただけます。報告会では市民の皆様のお声を検討に反映させるために、ご意見をいただくお時間を設けております。その意見を、ぜひ報告会で述べてください。

寺：何を言い出すんや！そんなん、恥ずかしくてたまらん。嫌じゃ！

寺多は、真っ赤な顔になって、市役所をあとにした。

— 帰宅後 —

寺：ただいまぁ。

トモ子（以下、トモ）：おかえり。ん、どうしたの？元気がないみたいだけど。

寺：ん、そうか？そんなこともないがな。今日な市役所に行って来てな……。

寺多は今日の市役所での話をトモ子にした。少し、しょんぼりとした二人であった。

トモ：そんなことがあったのですか。

寺：そうじゃ。思い出の景観を壊してたまるか。

トモ：……。ありがとう。そう言ってくれるだけでも、私はうれしいわ。

そして、そっと寺多の手を握った。



家族もまちも長い年月、愛情かけて
育つ仲間なんだね！

次回、いよいよ最終話！！